

愛媛県西条市に`未来投資、 シコー(株)西日本事業部が 『シコー・クリーン・ワークス』設立 手作業の新たな一歩を踏み出す

シコー(株)(白石忠信代表取締役会長。大阪市北区梅田1-1)は、事業規模拡大及び顧客対応の新たな戦略として、愛媛県西条市の西日本事業部愛媛製造部が有する東予工場(岡本シコー(株)・岡本護代表)の改修工事を実施した。

手加工による「PE(ポリエチレン)内袋」を今後の重要製品と位置づけ、その増産を図るためである。同製品の製造設備としては、西日本最大規模を誇る。名称は『シコー・クリーン・ワークス』とした。



鈴木誠社長挨拶

竣工式は午前11時開始、石岡神社神主による、開式、修祓、降神の儀等一連の儀が執り行われた。最後に、鈴木誠社長が以下のように挨拶した。



竣工式

令和元年5月30日、同工場敷地内において『シコー・クリーン・ワークス』竣工式が行われた。(株)ヨシザワ建築構造設計、明石建設(株)、岡本シコー(株)、シコー(株)愛媛製造部及び西日本事業部営業が一堂に会し、総勢70人が出席、華やかかつ神聖な式典となった。

竣工式開催

「この新しい工場、名称は『シコー・クリーン・ワークス』に決定しました。」

この日を迎えるにあたって色々な苦労もあったと思いますが、皆様のお陰で、とても新しく、モダンな感じになりました。

近年『異物混入』が話題です。ごみや髪の毛が混入していることが業界内で非常に問題視されています。この状況は年々厳しくなっています。

そこで今まで紙袋だけだったものに対し、ポリエチレンの袋を中に入れ、より衛生的なものにしていこうという考えが広まりました。これは昔からある製品ですが、常に、いかに清潔に、いかに効率よく作るか。これが課題でした。

製造において重要なのは工場の環境整備、つまりクリーン化です。今回、この『シコー・クリーン・ワークス』は、

我々の業界の中で、最先端、最高水準のものとなっています。規模でみても水準以上です。市場の中でこういった製品を作るのは、私たちの使命だと思っています。近年人手不足で、なかなかこのような手加工という作業が厳しくなっています。人手が集まりません。その供給不足をシコーが解消していきたいと考えています。

シコーはPE同時製袋でも紙袋を作っていますが、紙袋

の中にポリエチレンの袋を入れるという仕事は今後も継続するでしょう。

岡本シコーさんと我々シコーが手を組んで何十年もこのような作業をしていますが、これからも、クリーンな袋と一緒に作っていこうという思いでいっぱいです。結果的にお客様にさらに喜んでいただき、仕事も増えていくだろうと思っています」

また、同日午後より昼食会が開催され、同会場において白石忠信会長は以下のように語った。

白石忠信会長挨拶



「私たちは特徴のあるものを作りたいと日頃から思っていました。しかし汎用性の高い素材産業に対する袋を製造しておりますので、あまり特徴を出しすぎますと、使われないということも起こり得ます。」

現在、ポリの内袋作業など、他の会社では本当は避けたいところだと思っています。しかし、私たち逆にここに力を入れて、

同業の評価も得ながら仕事を
していければ、シコーの、そ
して地方の特徴になるのでは
ないかと考えました。

弊社では同様なポリエチレ
ンの重包装袋もやっておりま
すが、それも同業他社さんが
やらないような加工を施し特
徴を出し、がんばっております。
この新工場も是非、戦力
になってもらいたいと思って
います。

そして、今後はさらに社員
全員が誇りを持てる、自慢し
て話すことができる環境づく
り、製品づくりをしたいと思
っています。そこで働く人々
に『より良いものを作ろう』と
思ってもらうことがとても重
要なことだと信じています。

昨今、オーナー系企業がオ
ーナー系企業として継続して
いくことの難しさを痛感して
います。私も事業承継を念頭
に動いていますが、今回トー
タルのプランは鈴木社長、そ
れを西日本事業部長の白石常
務が具現化してくれました。

マーケットは古いのですが、
『未来に向かって、次世代の
人達がチャレンジしてくれる』
これがシコーの良さだと思っ
ています。

また、現場で実践を積んだ
人が成長してくれるのは非常
にうれしいことです。当社は
来年70周年を迎えますが、会
長の私がいるうちは、今のこ
とだけに集中しがちですが、

80周年、100周年を迎える
ために、常に新しい何かにチ
ャレンジすることが大切です。
是非、皆で『未来投資』をし
ていきましょう」

「シコー・クリーン・ ワークス」について

△概要▽

敷地面積約750坪、従業
員数約30名、主な製造品目は、
PE後差し袋（ミシン掛けし
た後にPE袋を入れた袋、及
び充填後もPE袋が抜けるも
の）、及びPE先差し袋（P
E袋を差した後にミシンがけ
をしており抜けないもの）の
2種。

△特徴▽

手加工専用の大規模なクリ
ン化ルームを設置。徹底的
に衛生面にこだわり、使用す
るPE原反はメーカーと製袋
加工（自社グループ丸倉化成
株）の計2回異物検知器を通
し除去精度を強化した。また、
作業者の働きやすさを優先し
た空調と、異物発見のしやす
い明るい照明に重点を置いた。
作業は2名一組。ベテラン
の作業者を中心に、PE内袋
の折り返し方や、その長さの
指定、あるいは天糊の細かな
つけ方など細かな業務に対応
している。

機械化で実現できない細か
な作業の要望を受け、西日本
最大規模の態勢でPE袋製造
に挑む。

近年、同社は香川工場においてもすでに新しい取り組みを実施している。そのひとつが、「2018東京国際包装展(TOKYO PACK 2018)」でも好評を博した宅配袋「アレレンジバッグ」である。同社は機械メーカーとプロジェクトを組み、7年前からトイレットロールの袋の製造を開始。以来、ペットフード、米の外装袋、さらに新幹線で使われるごみ袋等を製造している。特に近年はインバウン

シコーの新しい試み



作業風景



シコー・クリーン・ワークスの全景

最後に、竣工式後に白石忠臣常務が今後の抱負、新しいシコー像について語った言葉を紹介したい。白石常務「少子高齢化で日本のマーケットは小さくなってきています。また企業も同様に高齢化し、後継者問題等、様々な問題に直面しています。そのような中で、私たちは愛媛製造部において『手加工』にこだわりの他社様ではなかなかできないものを作り、お客様の要望に応えることに

次世代のシコー



アレンジバッグを抱える南木課長代理と鎌田課長

ド等でトイレットロール、新幹線のごみ袋等の需要が微増傾向にあるという。『アレレンジバッグ』は大型の片底袋であり、段ボールに代わる包装資材として注目を集めている。段ボールに比べ、材料コスト、使用後のごみの量、保管スペースなどが削減できる商材として、業界内外から大きな期待を寄せられている。

白石忠臣常務



しました。

両底袋でも底巾の大きいものをやろう。あるいは、段ボールを袋に変えてみようとか、さまざまな創意工夫を重ね、今まで取り組んできました。その考え方は今後変えるつもりはありません。特徴があり、付加価値があり、お客様から、そして同業他社様からもご注文を頂けるような製品開発を、未来も続けていくつもりです。

そして、自分自身のこれらのミッションは、シコー・クリーン・ワークスでできた製品の販路を広げたいことだと思っています。これからのシコーに是非ご期待ください」

西条市の概況

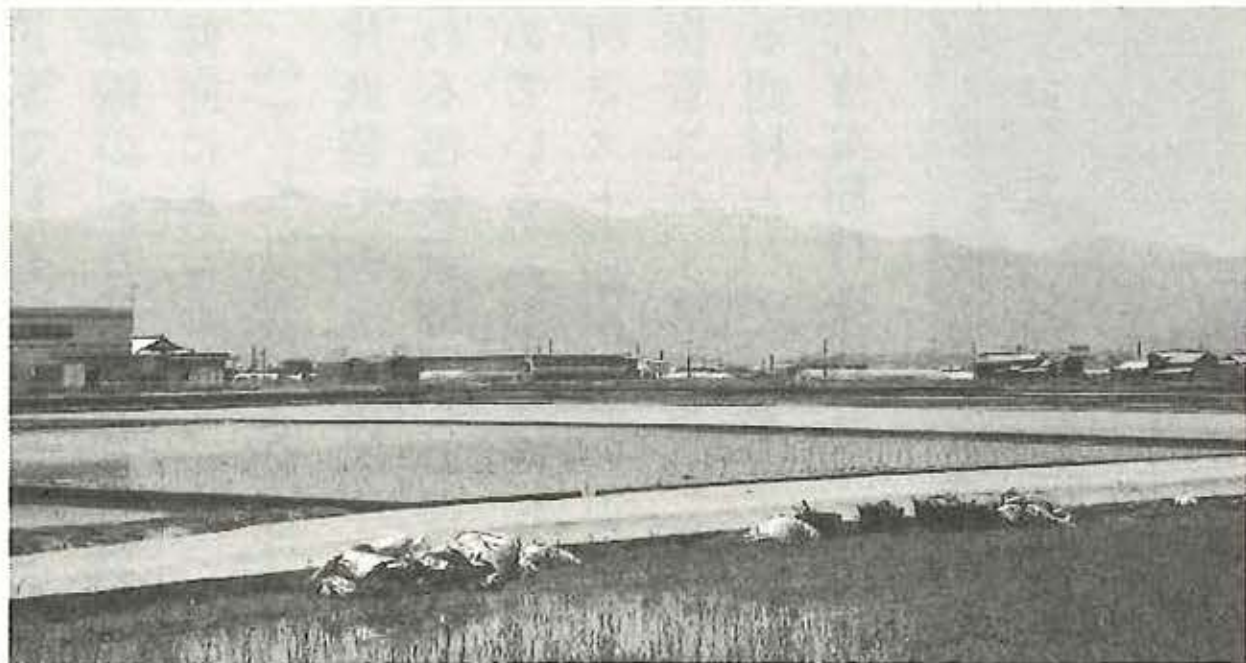
愛媛県西条市は、市が取り組んできた製造業などを中心とする産業振興方針を現在も継承しており、同市の工業出荷額は四国の市町村の中でも上位に位置する。

2000年代前半において

は製造品出荷額などにおいて四国最大を誇っていた。今治造船や日本食研などを擁する今治市、番の州臨海工業団地を擁する坂出市にほぼ近い。臨海部には国内最大級の今治造船のドックを有している。近年は様々な企業の物流拠点の進出も進んでいる(ウィキペディアより)

シコー会社概要

▽代表取締役会長 白石忠信、代表取締役社長 鈴木誠
▽設立 昭和25年11月2日
▽資本金 1億円
▽本社 大阪市北区梅田1-1-3 1500号 大阪駅前第3ビル15階
▽事業部 東日本事業部、西日本事業部
▽事業内容 大型紙袋・PE重包装袋・プラスチック段ボール・各種産業用包装資材の製造・販売



シコー・クリーン・ワークス前の石鎚山